

# 情報学ワークショップ 2009 論文フォーマット

情報 太郎 浜松 花子

情報大学情報学部

Information Workshop WiNF 2009 Paper Format

Taro Info Hanako Info

Faculty of Information, Information University

## 1. はじめに

WiNF:情報学ワークショップは東海地区を中心として大学、企業等の情報技術に関する最新の研究成果を発表すると共に、広く情報技術の交流の場を提供することを目的として、2003年に静岡大学で第1回ワークショップを開催しました。その後、第2回も静岡大学で、第3、4回は愛知県立大学で、第5、6回は名古屋大学で開催してきております。この度、2009年度の第7回情報学ワークショップを名古屋工業大学で開催することになりましたので、情報学分野の情報交換の場として多くの方の参加を期待しております。

これまでに、アブストラクトによる論文募集を締め切りましたが、多数の申し込みを頂きありがとうございました。

本資料では情報学ワークショップの論文作成の方法を示します。発表者の方は、この資料に準拠して論文原稿を作成していただくようお願いいたします。ただしそれぞれの専門分野で優先すべきフォーマットなどがありましたら、そちらのフォーマットに従うマイナーチェンジも結構です。

昨年度までの情報学ワークショップ論文集をお持ちの方は参考にしてください。

## 2. 提出いただくもの

今年度、論文集には1ページの概要を掲載することにし、論文の本文はCD-ROMに収録することとしました。従いまして、論文概要1ページおよび論文本文の2つを提出していただきます。

## 3. フォーマットの概要

### 2.1 論文本体のフォーマット

基本的にこのフォーマットに準拠していただきますが、もちろん書きやすいように、読みやすいようにマイナーチェンジして頂いてもokです。ただし最終的に書式を実行委員会・プログラム委員会で統一させて頂く場合があります。

(1) 日本語タイトル、著者名、所属、英語タイトル、英語著者名、英語所属は、最初に1段組みで書きます。文字サイズは、日本語タイトルと英語タイトルが12ポイント、日本語の著者名と所属、英語の著者名と所属は10.5ポイントです。この間の行間は15ポイントの固定値になっています。

(2) 本文は2段組みで、フォントは8ポイントで行間は1行です。この結果、1ページがおおよそ28文字×57行×2段となります。

(3) また、各節の見出しは10ポイントとしています。

(4) このようなフォーマットで4ページもしくは6ページに収まるように論文を作成していただきます。

(5) マージンは上下が3cm、左右が2cmとします。

(6) 文字フォントは、タイトル、著者名、所属、見出しの部分が、日本語フォント MSゴシック、英文フォント Arialを使用しています。また本文は、日本語フォント MS明朝、英語フォント Centuryです。ただしフォントについては特に制限はいたしませんので、独自の形式で論文を作成してかまいません。

(7) ページ番号をつけないでください。

(8) この資料はこのフォーマットに従って作成しています。

### 2.2 論文概要のフォーマット

論文概要は1ページでおおよその内容が分かるようにまとめてください。

本文の1ページ目と同様に日本語タイトル、著者名、所属、英語タイトル、英語著者名、英語所属を記述してください。それに続いて、論文概要、キーワード、もっとも重要な参考文献数点も記述ください。

論文概要はホームページにある「論文概要スタイル」の文書に準じたスタイルに従ってください。タイトルは12ポイント、著者名、所属は10.5ポイント、アブストラクト、キーワード、参考文献は10ポイントです。マージンは上下が3cm、左右が2cmとします。必ず1ページ以内に収めてください。ページ番号をつけないでください。

## 4. 提出締め切り

提出締め切りは、論文本体、概要ともに締め切りは10月16日です。よろしく申し上げます。

フォーマットファイルに準拠したワードファイル及びPDFファイルを、「winf09@cs.nitech.ac.jp」宛に、お送りください。

## 参考文献

[1] 牧野敏行、犬塚信博：関係データベースシステムを結合した論理データマイニングの実装、情報学ワークショップ2008(WiNF2008)論文集、pp.123-128(2008)。

[2] Nobuhiro Inuzuka, Junichi Motoyama, Shinpei Urazawa, Tomofumi Nakano: Relational Pattern Mining Based on Equivalent Classes of Properties Extracted from Samples, Proc. of 12<sup>th</sup> Pacific-Asia Conference on Advances in Knowledge Discovery (PAKDD2008), Lecture Notes in Artificial Intelligence Vol.5012, Springer, pp.582-591(2008)。

(参考文献の書式例)